

# 三心を磨く

学校だより No. 2

令和4年5月18日(水)発行

須坂市立東中学校

文責: (教頭)

<http://www.azuma-school.ed.jp/>

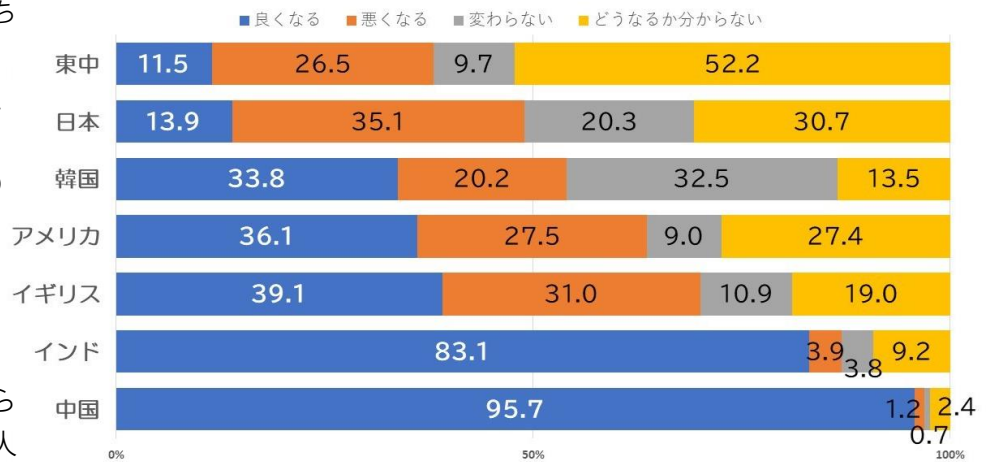
## ◇◇◇5月11日の校長講話より◇◇◇

教室で視聴する校長講話がありました。今回は、日本財団がまとめた「18歳意識調査 国や社会に対する意識(6カ国調査)」の結果をもとにしたお話です。生徒の皆さんは中学生12歳から15歳ですが、校長先生から意識調査と同じ質問項目でのアンケートに事前に答えてあり、東中学校生徒皆さんの意識と比較した内容でした。法律が変わり、日本でも成人年齢が18歳となったことは9割以上の皆さんは知っていましたが、海外の多くの国々はもともと成人年齢が18歳だったということには少し驚いたのではないのでしょうか。

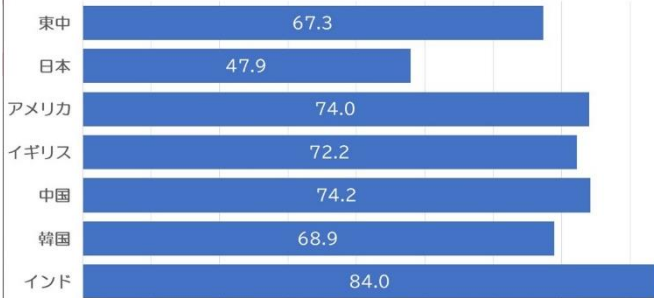
最初に、そんな18歳の人たちが「自分の国の将来について」良くなる?悪くなる?どう考えているのか、日本の18歳で良くなるかと考えているのは全体の14%(東中生12%)と、海外諸国に比べると半分以下の数字が示されました。

続いて、「自分には人に誇れる個性がある」「自分は他人から必要とされている」「自分は大人だと思う」「自分は責任がある社会の一員だと思う」「将来の夢を持っている」「自分の行動で国や社会を変えられると思う」という、個人についての価値観や社会に対する意識の質問に「はい」と答えた割合のグラフが示されました。

自分の国の将来について



自分には人に誇れる個性がある  
「はい」と回答した%



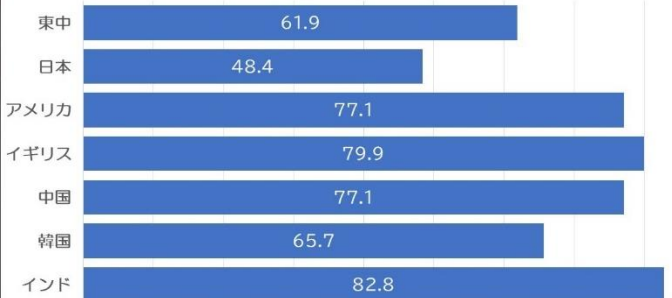
自分は他人から必要とされている  
「はい」と回答した%

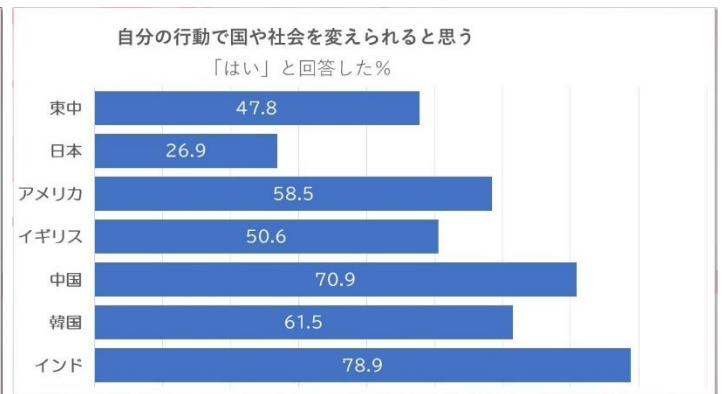
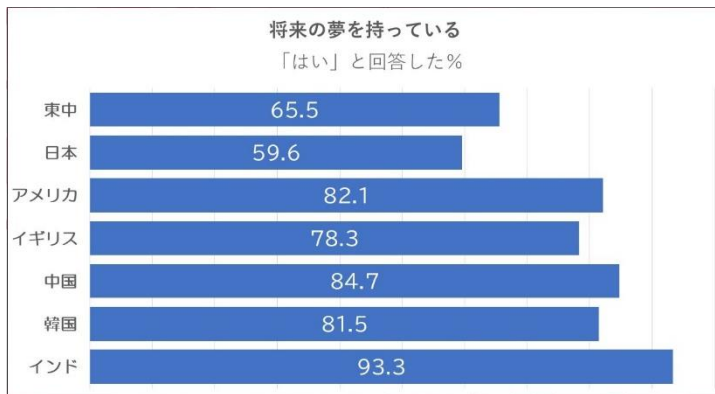


自分は大人だと思う  
「はい」と回答した%



自分は責任がある社会の一員だと思う  
「はい」と回答した%





それぞれの質問に対して「はい」と答えた日本の 18 歳は、海外に比べるとかなり低い割合です（東中生は日本の 18 歳より高めでした）。これらの結果を見て、校長先生から「海外に比べ、日本は国や社会に対する意識が低いこと、日本と世界の意識の違いについて、あなたはどのように思いますか？」と投げかけられました。

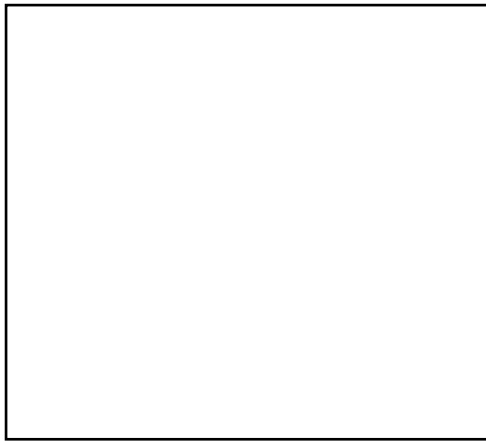
#### ↓ 生徒皆さんからの回答（抜粋）

- これからの社会を担っていく若者があまり社会のことを考えていない、もしくは知っていないことが分かり心配になりました。他の国の人達はどんなことをして自分の国の社会について考えているのかを知りたいと思った。
- 変えられると思って行動しないと本当に国や社会を変えることはできないと思いました。もっと積極的に国や社会のことについて考えたり、心配だと思ったら行動したりしなければならないと思いました。
- 成人である責任感が薄いのが若い世代が選挙に行かなかったりするのにつながってくるんだと思いますが、自分は外国人のように自分に自信を持てる成人になりたいなと思いました。
- 海外の人と比べて、意識が低いだけというわけではなく、どれだけ意識していたらいいのかという基準が海外の人と比べて高いんじゃないかと思った。
- 成人年齢が 18 歳に変更されたばかりだから意識が低いのはよくわかる。でも、それだと日本をこれから担っていく身だからこの社会が成人年齢が 18 歳ということで定着することが大切だと思う。
- 日本の 18 歳は自分になかなか自信が持てていない人が多く、自分では社会を変えられないと思ってしまっているのかなと思った。
- しょうがないと思っている、なぜなら自国の状態を知るものが少なく政治に関心がないから。なんでこの政策を行うのかメリットは何なのか逆にデメリットが分からない状態で自国の情報を知る機会が少ないのがまずよくない。日本人は共感性を求めがちな人種だから自分の力で何かを変えようとは無理だと考えている。だからこそ自信もなければ誇りも個性も少ないと思われる。だからいま日本はどのような状況にあるのかをいろんな観点から見るべきだと思う。
- まだ、18 歳から成人というのが染みついていないと思うのでしょうがないと思うけど、数年たった時に同じ結果だったときはよくないと思う。自分たちが大人になったときに今の日本と同じような意識ではなく、外国のような意識ができていいと思う。
- しっかりと、自分の考え方を持てばいいと思います。（自分は、今何をすればいいのだろうか）など。
- ほかの国と比べても人口が多いわけでもないし日本人は基本的に真面目なので深く考えてしまっていると思います。ほかの国と比べても低いのは日本の特徴の一つだと僕は考えます。
- 18 歳は高校 3 年生で周りから見たらもう義務教育も終わっているし、大人に見えるかもしれないけれど、当の本人たちはあまり意識をしていないのかもしれない。でも、押し付けられるのも違う気がするからこれから意識を高めていければいいと思う。

色々な考え方はありますが、「国や社会と結びついた経験」が少ないことが、意識の違いとなっているのではないかと、日本の 18 歳と外国の 18 歳の意識の差を埋められるような経験や、学ぶことの積み重ねをして意識を高めていってほしいと、校長先生は話されていました。

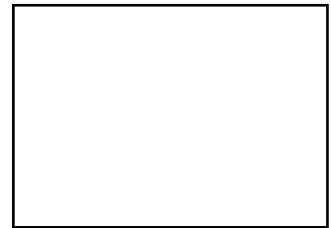
## ◇◇◇「プレイエルにいのちを吹き込む」をテーマに全校総合スタート◇◇◇

昨年度2月の校長講話をきっかけに、全校で取り組む総合的な学習の時間が始まっています。テーマは「プレイエルにいのちを吹き込む」です。東中学校開校前、山岸右京さんから寄贈されたプレイエルのピ



アノですが、今となっては生徒が触ることもなく、音を奏でることもないまま校舎一階のホール隅に置かれています。部品や鍵盤が破損していたり、傷んでいたりする状態です。そんなピアノに、以前の姿を取り戻させるため「プレイエルのよさや東中の取組みを地域に伝える情報発信」、「プレイエルを活用したイベント企画」、「プレイエルを修理するための資金集め」の講座に分かれて活動していく予定です。活動に備え、プレイエルのピアノについて詳しく知りたいということで、調律技能士の  
さんにお越しいただき、お話を聞く機会がありました。  
講演は、さんの「ピアノはどうやって音が出ているのか  
知っていますか？」という質問から始まりました。ピアノの

内部構造や音の出る仕組み、ピアノの歴史（強弱が利かないチェンバロをイタリア人が改良して作られたことなど）を話した後、プレイエルのピアノについて説明してくれました。プレイエルのピアノは、魅力的な音を奏で、鍵盤のタッチに対する反応が敏感であったためか、ショパンが愛好していたピアノだったそうです。修理する方法も複数の方法を説明してくれましたが、いずれの方法も高額になってしまうようでした。



3年生の進行により進められ、生徒皆さんからたくさんの質問がされました。「いつ製造されたのか」「同じものやこの年代に作られたものは何台残っているのか」「当時の値段は」「プレイエルはどのくらい有名なメーカーなのか」「他のピアノとの違いは」「他にはどのくらいのメーカーがピアノを作っていたのか」「どのように作られたのか」など。

「さん自身、ピアノにいのちを吹き込むとはどういうことだと思いますか」という質問がありました。「鍵盤の一部がはがれ、壊れたパーツを見る限り、自然に壊れてしまったとは考えにくく、人で例えるなら爪をはがされたり、髪の毛むしられたりしたような状態でかわいそう。でも、実際に弾いた音を聞くと華やかな音で『死んでない』と言っているように感じる。今の首の皮一枚つながっている状態から直すことができれば、いのちを吹き込むことになるのではないか。」と、さんは答えてくれました。

講演の最後には「皆さんの協力で復活させて、みんなで触れて、演奏会が開かれるようにしてほしい」とお話しされ、改めて「いのちを吹き込む」ことについて考えられた、貴重な機会となりました。

～ 生徒の振り返りから（抜粋）～

【調律技能士の さんの話を聞いて学んだこと】

- 東中学校のプレイエルは、とても珍しいということが分かった。
- プレイエルのピアノはとてもきれいで華やかな魅力のある音で、すごく価値があり大切にしていなくてはならないものだとわかりました。鍵盤が剥げていたり、弦が切れているのは月日を積み重ねてきたからだと思っていたけど、誰かが意図的にやったということがわかり、今後はそういうことがないように大事に扱っていきたいです。
- PLAYEL の会社が、ヨーロッパ有数の技術を持った会社であり、作られたピアノも非常に質の高いものであること。PLAYEL のピアノはすべて手作りで、そのために製造台数が非常に少ない貴重なものであること。また、可能な限り原型に近い形で修復するには、莫大な費用がかかること。
- 今までピアノには音の差がないと思っていたけど、メーカーや職人によって様々だと知った。ヨーロッパのピアノと日本のピアノの違いや、改めてプレイエルのピアノはとても貴重なものだと知った。

【今後さらに調べてみたい・やってみたいと思ったこと】

- 修復や修理にかかるお金が結構かかるみたいなので資金集めを早くから考えて実施したい。プレイエルのピアノの魅力や価値をもっと発見して、それをまた発信していきたい。イベントを開くときにどんなことをしたらいいのかまた、それによってどんな効果が得られるのか、よく考えてみんなで協力して実行していきたい。
- 修理をして完璧な状態の音色をききたいです。
- 修理、修復費用を集めて何としてでも直してあげたいと思った。
- こんなにすごいピアノがあるのに、地域の人たちが知らないっていうのはもったいないので、ピアノの魅力を発信したい。
- ピアノについて少し興味が湧いた。自主学习で調べてみたいと思った。
- いつ作られたとか、ほかのピアノとどんなところが違うのかとかを調べて、プレイエルのピアノをより詳しく知ってから、少し弾いてみたい。

【「いのちを吹き込む」とはどういうことか。(今の私の考え)】

- 人に気にされず忘れられていたものを再び活気があり、元気のあるものにすることだと思います。
- 新品と同じはできないけど、修復して、修復をしたあとピアノを使ったイベントや、合唱でもプレイエルのピアノを使ったりする。
- 一番はプレイエルのピアノを使えるようにできることだけど、ピアノに注目して活動することもピアノについて知れるので命が吹き込まれたということになりそう。
- すこし壊れかけているピアノから修理してまた新しくなったピアノが学校にきたら、変わった生活がまたできるんじゃないかなとおもう。
- 良さを発信して多くの人に魅力を知ってもらうこと。再び使えるようにすること。
- 「直す」ということではなく演奏会を開いたりプレイエルの良さを引き出すこと。
- よく使って、みんなに親しまれているピアノにすること。

☆講演会終了後、ピアノは生徒昇降口に置かれています。  
学校にお越しの際は、是非ご覧になってください。



**PTA 作業 ありがとうございます**



5月7日(土)、早朝よりPTA作業が行われました。今回は、2組の保護者の方々を中心に大勢のお父さん、お母さんにご参加、ご協力いただきました。校舎周辺、プールやグラウンドの環境整備(落ち葉集め、石拾いなど)、畑や花壇の石除去や整地が中心となる作業内容でした。生徒も清掃や美化活動に取り組んでいますが、日頃手のまわらない部分の環境整備をしていただき助かりました。少し汗ばむような天候のなか作業いただき、本当にありがとうございました。2回目は9月10日(土)に予定されています。ご協力、お願いいたします。



【**登下校の安全について**】このところ、学校周辺地域でイノシシの出没情報についての知らせが届くことがあります。その都度、生徒皆さんには注意喚起しているところですが、交通安全や歩行マナー含め、登下校の安全について、各家庭でもご確認いただきますようお願いいたします。